SECURITY TREND NEWS

Vol.07
2026

Hot Topics 2026 Jul.

- AIで「脆弱性発見」は加速｜対応が追いつかない時代へ
- メール誤送信は他人事ではない
- 事例で見る　内部不正による情報流出
- そのルーター、大丈夫ですか？

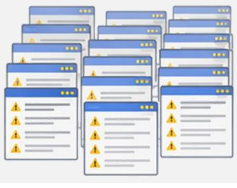
Topic 01

AIで「脆弱性発見」は加速 対応が追いつかない時代へ

2026年4月、米Anthropic社は高性能AI「Claude Mythos」を活用した、ソフトウェアの脆弱性を発見するプロジェクト「Project Glasswing」を開始しました。

AIがもたらした発見力の変化

- 27年間発見されなかった、OS上の欠陥を検出
- 500万回のテストでも見つからなかった、16年前のバグを検出



脆弱性発見の加速と課題

- 約50社と連携し、わずか1ヶ月で1万件を超える重大な弱点を検出
- 現在は「見つかった弱点を直す速度」が最大の課題に

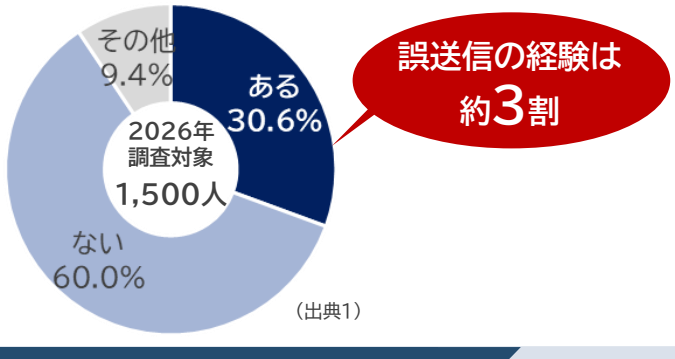
Topic 02

社会人の3割が経験

メール誤送信は他人事ではない

企業で働く人の約3割が、メール誤送信を経験しています。また、近年はAIの活用拡大により、情報漏えいリスクがさらに高まっています。

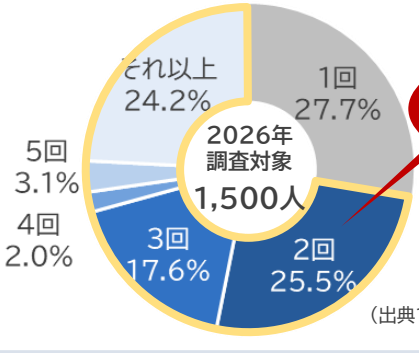
メール誤送信を経験した人



誤送信の経験は約3割

（出典1）

複数回の誤送信を経験した人



繰り返されるミスは約7割

（出典1）

AI活用と新たなリスク

業務でのAI活用は、さまざまな場面に広がっています。

（出典1）

第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
情報収集・調査	メール・文書の下書き作成	議事録の作成・要約	翻訳・多言語対応	社内ナレッジ検索
（55.5%）	（39.3%）	（28.5%）	（20.6%）	（19.3%）

メール作成にAI利用が進むと、**意図せず機密情報が含まれる新たなリスクも生まれます。**

注意するだけでは限界があり、「仕組みとしての対策」が求められつつあります

（出典1）デジタルアーツ株式会社「メール誤送信実態調査」を元にキヤノンマーケティングジャパン株式会社で作成

Topic 03

事例で見る 内部不正による情報流出

「内部不正による情報漏えい等」は、情報セキュリティ10大脅威に**11年連続で選出**されています。実際にどのような事案が起きているのか、具体的な事例を見てみましょう。

富士通Japan

営業機密（26ファイル） → 私用メールに転送 → 転職活動に使用

ユナイテッドアローズ

顧客情報（約1万人分）（クラウド） → 私用メールに転送 → 外部PCへ持ち出し

リクルート

従業員情報（約1.9万人分） → 社内資料の持ち出し → 社外への提供

ヤマト運輸

企業関連情報（約2.7万件） → 第三者へ流出 → 第三者が営業に利用

情報持ち出しはどのように防ぐのか

原因

- 正規権限の操作は通常業務に見えるため、発見が遅れやすい
- 退職・異動時の管理不足により、持ち出しが発生しやすい

対策

- **アクセス権の見直し、ルールの徹底（特に退職時・異動時）**
- **私用メールへの転送・クラウド外部連携を可視化し、監視を強化する**

Topic 04

＼ まだ使える＝すでに危険 ／

そのルーター、大丈夫ですか？

古いルーターは「動いていても危険」です。現状確認と更新計画を立てることが重要です。

こんな状態になっていませんか？

- ☐ 5年以上使用している
- ☐ サポート期限を確認していない
- ☐ 一度も更新していない

サイバー攻撃の入り口になり得る

「動く」＝「安全」ではありません

なぜ危険なのか？

インターネット → ルーター → 社内ネットワーク ／ ルーターが突破されると内部へ侵入される ＼

企業に起こる主な被害は？

- ☐ 情報漏えい
- ☐ ランサムウェア感染
- ☐ 取引停止・信用失墜

IT部門だけの問題ではなく、企業全体の経営リスクになります

無料オンラインセミナー開催のご案内

セキュリティ対策評価制度に備える

IT資産管理から始める自社セキュリティ強化

参加無料
事前登録制

日時

2026年
8月25日(火)
14:00-15:00

- ●定員:300名
- ●対象:経営層・ご担当者様
- ●申込開始:7月1日(水)
- ●申込締切:8月20日(木)

■インターネット環境があれば自席で受講いただけます

セミナー概要

サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度の導入を控え、自社のセキュリティ水準を客観的に把握し、取引先へ信頼を示す取り組みが求められています。
本セミナーでは、制度の背景と評価内容を整理し、対応の第一歩となる「IT資産管理」の重要性と実践ステップを解説。IT資産管理ツールの活用例も交えながら、セキュリティ強化に直結する取り組みをわかりやすくご紹介します。

講師

株式会社ディー・オー・エス
営業企画課
古賀みのり 氏

2020年にディー・オー・エスへ入社。IT資産管理ツール「SS1／SS1クラウド」のマーケティングに従事。オンライン・オフラインを問わずプロモーション施策の企画・運用を担当。
現在は、各地のイベントやオンライン配信で、IT資産管理・セキュリティ対策・ログ管理の重要性をテーマに多数の講演を行っている。

■セミナー申込サイト

キヤノンMJ　セミナー　検索

WEBサイト:https://canon.jp/biz/event

※お申込みの際に
東洋の【会社コード】の入力が必要です。
【会社コード】G03867

■セミナー紹介動画

セミナーの概要を3分でご紹介しています！